

緑の王子

2010年2月28日 アシェル・イントレーター

今週「ハアレツ」(イスラエルで3番目の規模を持つヘブル語新聞社)は、シーク(注)・ハサン・ユーセフ(ハマスの創設の主要な一人)の息子であるマサーブ・ユーセフのインタビューを掲載しました。1996年、彼が18歳の時、マサーブは不法に武器を所有していたかどで逮捕されました。彼はイスラエルの刑務所に放り込まれ、容赦なく痛めつけられ、尋問されました。この時彼はどのようなことをしてでもイスラエル人であれば誰でも殺すつもりでいました。

注:シーク(Sheikh)は、アラブ社会での「族長、村長、家長」という意味で、精神的指導者にも「シーク」という尊称が付けられることがあります。

イスラエル治安部隊は彼を従業員として働かせようとし、彼はそれに同意しました。彼は二重スパイとなってイスラエル人を内部から攻撃しようと思っていたのです。しかし、彼が刑務所にいた頃、ハマスの指導者が仲間であるイスラム教徒の囚人たちをひどく虐待しているのを目撃したのです。彼はイスラムに幻滅し、ハマスの指導者はイスラエル人よりひどいのではないかと思いました。

彼は1997年に釈放されました。彼が釈放された後、イスラエル治安部隊員と接触を続け、彼らが非常に理性的で人道的であったことに驚きました。彼は、治安部隊は一般的に反イスラム、反パレスチナではなく、ただテロ攻撃を止めようとしているだけだと分かりました。彼は治安部隊の視点で物を見るようになり始めました。

1999年、イギリスから来たクリスチャン観光客がエルサレム旧市街にあるダマスカス門の近くで彼と会い、聖書を学ぶ集会に招待しました。退屈であったことと興味もあり彼はそれに参加しました。彼はそこに集まる若者たちを気に入り、そこでの議論は興味深いと思いました。彼はアラビア語の新約聖書を持って帰り、読み始めました。彼が以下の御言葉に来た時:

マタイ5:44「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」

若いマサーブはイエシュア(イエス)の愛の教えにショックを受けました。彼が今まで聞いてきたことと完全に異なっていたからです。しかし、彼が心の中で葛藤してきたこととすべて一致すると思われました。「自分の敵を愛する」が、イスラエル人とパレスチナ人との問題に一光の希望をもたらすように思えました。

数年後、彼は生まれ変わったイエシュアの信者となり、西岸地区でイスラエルの秘密工作員の主要人物として働き始めました。彼には「緑の王子」というコードネームがつけられました。緑はハマスの色で、王子は、彼がハマスの指導部の一人の息子だからです。

2000年から2006年、マサーブは多くの重要な治安事件に関わりました。それには第二次インティファダの勃発、アル・アクサテロの組織に潜入しハマスとPLO間のつながりを暴き、ダマスカスにあるハマス本部から機密情報を入手し、数多くの自爆テロ活動を阻止してきました。

イスラエル治安部隊は、大勢のイスラエル人の命が救われたことについてこの青年に借りがあると述べています。彼らはまた、マサーブは他のほとんどのパレスチナ人工作員とは違うと述べています。彼の動機はお金や必要ではなく、命を救うという思想に基づいているのです。彼は非常に尊敬されており、彼の影響力は密やかではありますが、時によって彼の言葉は首相や軍首脳部の決断を変えさせるほどの力があるのです。

ハアレツでのインタビューで、彼が語った一部を翻訳します。

「私は嘘をつきませんし、私は決して恐れませんが、しかし、私は何百人という人命、イスラエル人、パレスチナ人、アメリカ人を救ってきたという事実によって動機を高めています。これによって前に進む力を得ているのです。私は親イスラエルでもなく親パレスチナでもありません。私は、誰であってもすべての人の父である私の神のために働いているのです。

イスラエル人とパレスチナ人との間の紛争の根は軍事的なものではなく政治的なものでもありません。これは二人の「神々」、すなわちトーラー(訳注:聖書)の神とコーラン(訳注:イスラム教の聖典。クルアーンとも発音する)の神との間の戦いなのです。コーランは、この地(訳注:エルサレムを含むイスラエル全土のこと)は聖なる地であり、それを譲り渡すことは許されないと教えています。聖書は、この地はユダヤ人のものであり、それを譲り渡すことは許されないと教えています。

穏健派のイスラム教徒であっても、コーランに書かれている、ユダヤ人はサルの子らであり、異教徒として殺すべきである、を読むのです。パレスチナ人は自分の問題をイスラエル人のせいにするのを止めるべきです。もし彼らが本当に自由になりたいければ、彼らは自分たちの神から自由にならなければなりません。

ハマス指導者はイスラエル人と平和を結ぶことはできません。異教徒と平和を結ぶことは許されなからです。パレスチナ人が殺されていることに関し、現在のハマス指導部に責任があります。彼らがガザ地区を占領した時に行ったように、彼らはモスクの中に座っている人々を殺害することや、高い建物から人々を投げ落とすことを躊躇しません。」

2007年、マサーブはアメリカに亡命し、現在彼はそこに住んでいます。

先週彼はイスラエルの刑務所に収監されている父に電話しました。彼はその時初めて、父にイエシュアへの信仰と今までのイスラエル治安部隊での働きについて説明しました。それは恐らく彼と彼

の父との間で心が砕けるような会話であっただろうと思われます。彼は父を非常に愛し、尊敬し、そして称賛しているのですから。

マサーブは現在、彼がハマスの元で子供時代を過ごした事、イスラエル治安部隊と共に働いた事、そしてイエシュアへの信仰についての本の出版を進めています。それが出版されましたら、どうかその本を購入して下さい。(私は出版前の原稿を受け取ったのですが、最初のページを開いたとたん、真夜中になっても読み終えるまで止められませんでした。)

どうかこの若者が霊的にも身体的にも守られますようお祈り下さい。彼の命は明らかに危険にさらされています。彼の信仰の証は西岸地区に広がっており、明らかに霊的な衝撃波を起こしています。

記者追記:3月2日付のエルサレムポストで、マサーブさんは父親から勘当されたという記事が載ったそうです。(シオンとの架け橋・イスラエルニュースより引用)

最新の情報

テレビ放映:アシエルインタビューは先週放映されました。もしそれを見たいと思われましたら(ただし、現在ヘブライ語のみで、字幕はありません)、<http://www.23tv.co.il/282-he/Tachi.aspx> のプログラム 455 をクリックして下さい。大勢がそれを視聴するようどうぞ続けてお祈り下さい。テレビ局のマネージャーは、すでにこの番組について超正統派からの脅迫や苦情を受け取っていると教えてくれました。

エステルの断食:今週エルサレムで12のコングリゲーションが集まりました。指導者たちとの間で一致があり、悔い改め、賛美、執り成しの祈り、預言的な宣言、角笛を吹き鳴らすこと、そして主の聖餐が行われました。それらはすべてヘブライ語で行われました。聖徒たちはこのような機会がもっと行われるように希望しており、主によって皆が励まされました。